

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3092200108		
法人名	有限会社 響		
事業所名(ユニット名)	グループホーム ゆらり1		
所在地	和歌山県田辺市上の山1丁目19番23号		
自己評価作成日	令和2年2月19日	評価結果市町村受理日	令和2年12月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaiqokensaku.mhlw.go.jp/30/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan=true&JiqyosyoCd=3092200108-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	令和2年11月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>みんなで支えあい、ひとり一人が役割を持ち、協力し合うことで生活する意欲を引き出し、その人が生き生きと暮らせるようにつとめる。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「入居者に安心・尊厳を」の精神を持って、温かく見守り笑顔で暮らしていただくことを目指し、努力を続けている。職員間では、入居者に懐かしい方言で話しかけると笑顔で答えてくれた事等些細なエピソードでも共有を図るとともに、少しでも疑問点や意見があれば「3分間ミーティング」を実施し、全員で意見交換を図り、入居者へ寄り添った支援に繋げている。災害による停電時に備え、冷蔵庫やライフライン用蓄電機を常備しており4日間は事業所独自で生活できるよう設備を整えている。</p>
--

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を踏まえ、利用者様の日々の生活向上に繋がる様に実践している。	会社理念とは別に、標語的な言葉で『人生あせらずゆっくりゆらり時間で自分らしさを見つけませんか』と掲示し、基本理念として実践出来るよう検討している。	作成中の独自理念について、出来るだけ早期に完成され、実践されることを期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	施設や近隣周辺の美化活動を自主的に行いきしゅう君の登録等防災面で連携している。	感染症予防のため、面会等は制限され、毎年のボランティアや体験学習などの訪問はなく入居者との交流は減少したが、加入している自治会からの情報を得たり、隣接農家と窓越しの交流、道路のゴミ・木の葉掃除等に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症について相談を受けた場合にはその支援方法や対応策を詳しく説明させて頂いております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中での意見や助言等を参考にしてよりよい支援に繋がる様に努めている。	2カ月に1回 元町内会長、家族、施設職員、包括の参加で開催されていたが、今年度は文書開催になっており、施設内研修・行事の報告、家族アンケート等をお願いした。施設への感謝の言葉が多かった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	外部から相談があり、解決が困難な事例等の連携をとっている。	介護保険指導や権利擁護等の会議に出席し、市の担当者に具体的な相談をしたり、新型コロナウイルス感染症予防や避難対策、施設ユニット間をつなぐ廊下設置に関しても積極的に相談や連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修等で人権を大切に、適切なケアに努めている。	外部研修への参加は控え、施設内研修で人権問題・虐待・接遇など紙面研修も含め学びを多く持ち、スピーチロックや手袋等も拘束である事を理解するように取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々虐待がおこらない様に注意し、言葉づかい等にも注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	業務の中で権利擁護や後見人制度を活用しておりますので熟知できている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族様には解りやすく説明させて頂き、解らない部分は再度説明させていただいております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	気軽に面会できる明るい居住域なので家族様は思っている事を何でも相談されます。	家族には、電話面会時に、意見や相談しやすい和やかな対応で働きかけるとともに、アンケートをお願いし、出された意見を事業所の運営に反映出来るよう努力されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務の中で思いついた事や意見が気軽に話し合えるフレンドリーな職場環境に整備されている。	ユニット建物が独立し、往來不便なため全体会議で要望されたユニット間をつなぐ渡り廊下を、6月に設置してから、入居者やスタッフが自由に交流出来るようになり喜ばれている。事業所運営への要望や意見等は、管理者が積極的に汲み取るよう努力されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務に対する自己評価を各自で採点して頂き、自分の苦手な部分や得意な部分を自己にて振りかえって、より向上心ややりがい等が導き出せる様に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々の業務の中でお互いに声掛けしてより良いケアが実践できる様、経験の少ない職員さんはベテラン職員に近づける様トレーニングしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	サービス付き高齢者住宅と連携をとり、グループホーム以外の支援に対する問題点等を議題にしサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	受容、傾聴の姿勢で丁寧な言葉使いにて対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の要望を本人様の支援に反映できるように努め信頼関係が築ける様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要と思われるサービスを導入する際には、家族様に事前にお伝えし、相互理解を深めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の能力に応じた役割を見出してもらい、職員と共に生活をしている環境作りをおこなっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要に応じて連絡させて頂き、共に利用者様を支えていく様に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様の要望に応じて買い物や散髪等の支援に努めている。	入居時に、馴染みの理美容院や商店、祭り行事等の情報を集め、時には家族協力のもと、外出や買い物への支援を行っている。最近では感染症予防のため通院時にドライブして気分転換を図っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	できるだけフロアーにて過ごして頂ける様に支援し、利用者様同士の関わり合いが増す様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も認知症についての相談や支援方法について返答している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族様の情報や生活歴等を分析して、本人様の意向に沿える様に支援している。	思いや意向等、何を言っても良い柔らかい雰囲気作りを心がけ、入居者との会話を出来るだけ多く持つよう日々の表情から推測される事も大切にし本人本意に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家族様や本人様から聞き取りをして情報の収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の過ごし方の情報を申し送りで細かく伝達し、現状の心身状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議や日々の申し送り、全体会議等で個々の利用者様の情報を細かく分析して介護計画に反映させている。	毎月の全体カンファレンスで、計画変更などについて看護師や担当者から意見を聞き、実施途中の見直し変更にも反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を日々行い、業務の中で気づきや工夫を活かされる様に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じた柔軟な対応で、視野の広いサービスに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの店やその季節に楽しむ事ができる景色等をみて頂き、穏やかな気持ちで過ごせる様に支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様の持病を優先に糖尿病の方でしたら糖尿病内科等適切な医療が受けられる様に支援している。	かかりつけ医は、病状に応じ往診相談など関係を持っており、希望する医療を適切に受けられる体制をとっている。看護師も常に医師・スタッフ・家族・病院と連携を取りながら支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調不良や緊急時の対処方法及び処置方法について連携している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	アセスメントシートやフェイスシートにて情報を交換している。また、定期的な訪問にて細かな情報を収集し、退院後の体調管理に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り介護や在宅復帰について経験があり、よりベストの支援ができています。	看取りも経験している。重度化や終末期医療に関しては、入居時に説明しており、かかりつけ医か担当医・スタッフ・家族と話し合い、施設で出来ることの範囲を伝えチームケアに取り組んでいる。看取り希望者が増加している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の重度化にて個々の職員が現場にて経験できている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練や避難訓練にて不測の事態に備えている。	防災訓練を年2回実施。内1回は夜間実施しており、地震・津波の訓練は、退避場所まで時間がかかるため、情報や程度により、非常放送等に注意するようにしている。消防署からは、夜間一人の勤務体制で訓練を実施する事を指導されている。	夜間一人の勤務体制での訓練を実施して経過を記録するなど万が一の災害時に備えるよう期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	実践にて雑な言葉使いになった際には、お互いその場で注意しながら業務をこなしている。	認知症介護の質を高める為、プライバシー等心理的対応にも眼を向けていく努力をしているが、時々入居者の声のトーンが高くなる等些細な事でも気になる点があれば、職員間で都度3分間カンファレンスを持ち情報の共有を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思疎通の困難な利用者様にもジェスチャー等で自己決定できる様に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の利用者様のADL等を見極め自分のペースで無理なく暮らしていける様に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類等は本人様が選択できるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の能力に応じて準備等を手伝って頂ける様に支援しています。	重度化し手伝いされる方が少なくなっているが、入居者の好みを聞くなどし、食事に出来るだけ楽しみを持てるよう工夫している。行事食はクリスマスや敬老会などで、たこ焼き作りやそうめん流しなども取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後の摂取量を記帳し、本人様の状態を把握しながら1日の栄養摂取量や水分が確保できる様に支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立されておられる方でも必要に応じて仕上げを行い口腔内の清潔の保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の訴えが困難な利用者様には定期的 にトイレへ誘導させて頂きトイレにて排泄で きる意識が継続できる様に支援している。	排泄チェック表により、個人の排泄パターン や習慣をチェックし、ポータブルトイレやパット の使用を調節している。意思表示の困難な 入居者には、表情を読み排泄パターンから 推察して誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や野菜の摂取、毎日のラジオ体操 やレクレーションにて便秘予防に努めている 。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を 楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決 めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人様に入浴する事を伝え、本人が入浴に 対して気が進まない場合は後日入浴して頂 ける様に支援している。	自立した入居者には、毎日の入浴希望にも応じ ている。気が進まない入居者には、様子を見なが ら声掛けし、時間をずらすなどして無理強いはし ていない。入浴の際は、入浴剤を使用するなど楽 しい雰囲気づくりに支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じ て、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支 援している	温度や照明の照度に注意して、安心して入 眠できる様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用 法や用量について理解しており、服薬の支援と症 状の変化の確認に努めている	服薬の説明書をお薬とセットで管理してお り、服薬変更がある際には個々の職員が変 更について対応できる様に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一 人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、 楽しみごと、気分転換等の支援をしている	健康状態に気をつけながら嗜好品等を提 供し、活力のある暮らしができる様に支援し ている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出か けられるよう支援に努めている。又、普段は行け ないような場所でも、本人の希望を把握し、家族 や地域の人々と協力しながら出かけられるように 支援している	季節感を味わう事が出来るような外出支援 に努めている。	今年は感染症予防のため、外出制限されて いるが、ボランティアが玄関周辺で世話して いる鉢花観賞に出たり、通院時にドライブし て季節感を味わえるよう努力している。玄関 周辺のプランター花の鑑賞やユニット間渡り 廊下を使用し訪問交流をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方は自己にてお金を管理して頂いており、要望に応じて買い物支援等も行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様の希望通り手紙や電話等の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感が味わえる様な空間を貼り絵等で演出している。	フロアは広く、ソファや畳の間など落ち着いて過ごせる空間が整備されている。壁には季節を感じる花を飾り、居心地のよい環境作りをしている。玄関にはボランティアの世話で花が観賞できるとともに、水瓶には、メダカ・熱帯魚を飼育し楽しめるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	できるだけ気の合う利用者様と座席等が近くなる様に支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に馴染みのタンスや本人様の使い慣れた物をお持ち頂く様に説明してまします。	入居時に家族と相談し、入居者の動線を考慮した家具の配置を行うとともに、写真や思い出の品物、仏壇を好みの位置に配置するなど、入居者が居心地よく過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事はすすんでしてもらい、自立に向けた生活の支援に努めている。		